

第 2 章 関係地域等

2.1 環境影響を受ける範囲であると認められる地域

事業の実施により影響を受けると認められる地域は、環境要素の中で最も広範囲に影響が及ぶと考えられる景観影響（これまでの自然環境アセスメントの実績では 2km 程度）を考慮し、図 2.1-1 に示すとおり、対象事業実施区域を中心とした片側約 2km の範囲とした。

管轄する市町村は以下の 1 町である。

- ・ 南巨摩郡南部町

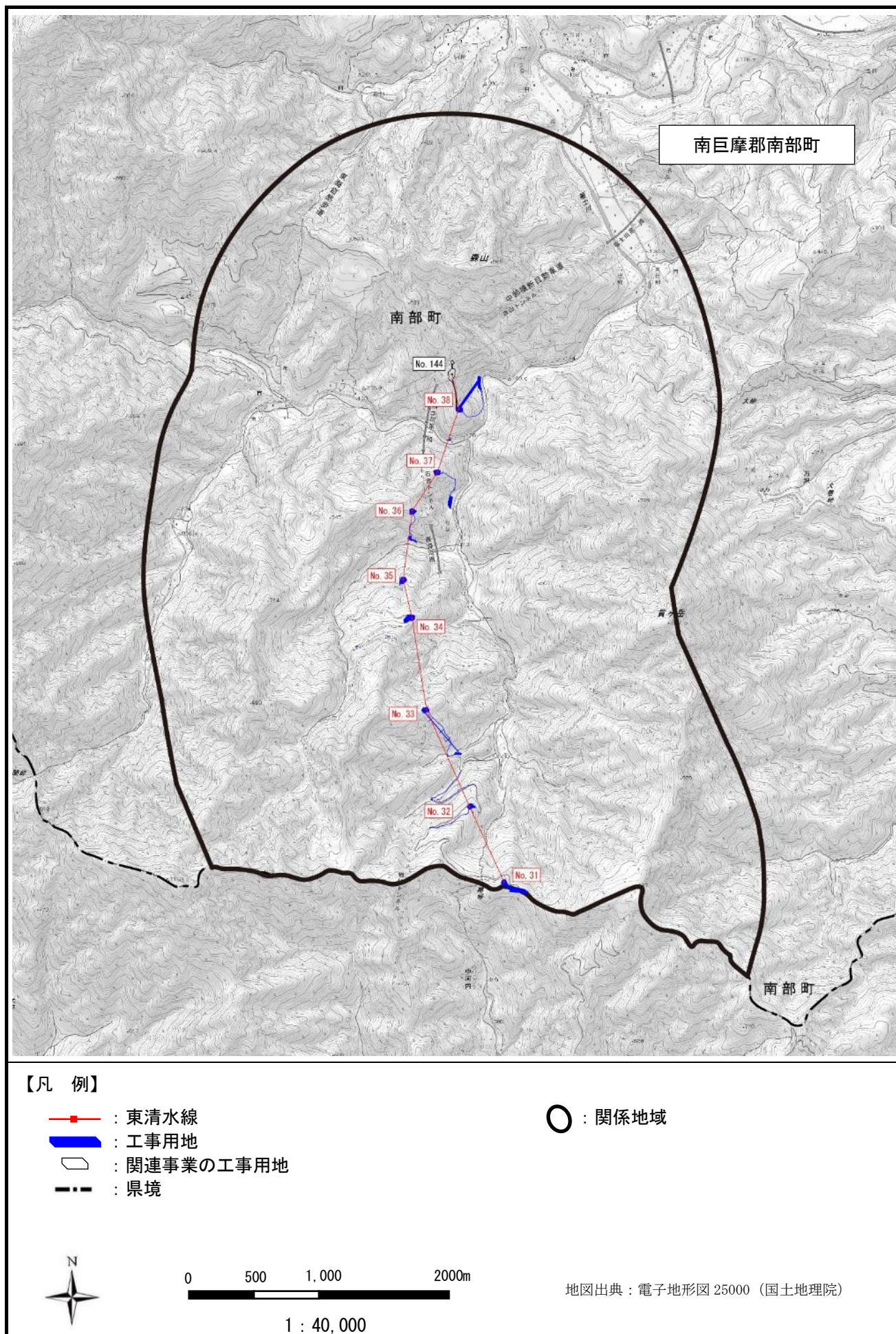


図 2.1-1 関係地域

2.2 環境への影響が懸念された環境影響評価項目

補正評価書における環境影響評価項目の選定状況及び選定もしくは除外した理由を表 2.2-1 に示す。

除外した項目（－）や一般的な環境保全対策で対応するとした項目（△）は、想定通りの状況であり、環境影響は生じていない。

表 2.2-1 環境影響評価項目及び選定・除外理由

環境影響評価項目		影響要因	選定状況	環境影響評価項目として選定もしくは除外した理由
大気汚染	大気質	工事による影響	△	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い大気汚染物質が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあるため選定するが、稼働台数が少なく、短期間であることから影響は軽微である。そのため、調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い大気汚染物質は発生しないため、選定しない。
悪 臭		工事による影響	－	工事の施工に伴い悪臭は発生しないため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い悪臭は発生しないため、選定しない。
騒 音		工事による影響	△	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い騒音が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあるため選定するが、稼働台数が少なく、短期間であり、至近に人家が存在しないことから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い騒音は発生しないため、選定しない。
低周波音		工事による影響	△	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い低周波音が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあるため選定するが、稼働台数が少なく、短期間であり、至近に人家が存在しないことから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い低周波音は発生しないため、選定しない。
振 動		工事による影響	△	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い振動が発生し、周辺環境に対して影響を及ぼすおそれがあるため選定するが、稼働台数が少なく、短期間であり、至近に人家が存在しないことから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い振動は発生しないため、選定しない。

環境影響評価項目		影響要因	選定状況	環境影響評価項目として選定もしくは除外した理由
水質汚濁	水質・地下水の水質・水底の底質	工事による影響	△	工事敷地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁のおそれがあるため選定するが、各鉄塔の改変規模が小さいことから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い水質汚濁物質は発生しないため、選定しない。
水 象		工事による影響	－	各鉄塔の改変規模が小さいことから水象への影響が想定されない。そのため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路は水象に影響を及ぼす稼働をしないため、選定しない。
地盤沈下		工事による影響	－	各鉄塔の改変規模が小さいことから周辺地盤への影響が想定されない。そのため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路は地盤沈下に影響を及ぼす稼働をしないため、選定しない。
土壌汚染		工事による影響	－	工事の施工に伴う土壌汚染物質の発生はないため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い土壌汚染物質は発生しないため、選定しない。
地形・地質		工事による影響	－	工事の施工に伴い地形・地質に影響を与えないため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路は地形・地質に影響を及ぼす稼働をしないため、選定しない。
日照障害		工事による影響	－	工事中に日照障害を生じるような仮設物を設置しないことから周辺環境への影響が想定されない。そのため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路の存在による周辺環境への日照障害の影響は、鉄塔の大部分が空間であるため想定されない。そのため、選定しない。
植物・動物	陸上植物	工事による影響	○	樹木の伐採、土地の改変により、陸上植物の生育環境に影響を与えるおそれがあるため、選定する。
		存在・供用による影響	－	送電線路は陸上植物に影響を及ぼす稼働をしない。また、供用後の保安伐採を行わない計画としているため、選定しない。
	陸上動物	工事による影響	○	樹木の伐採、土地の改変、建設機械の稼働及び工事用車両の走行により、陸上動物の生息環境に影響を与えるおそれがあるため、選定する。
		存在・供用による影響	－	送電線路は陸上動物に影響を及ぼす稼働をしない。また、供用後の保安伐採を行わない計画としているため、選定しない。
	水生生物	工事による影響	○	工事敷地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁が発生し、水生生物の生息環境へ影響を与えるおそれがあるため、選定する。
		存在・供用による影響	－	送電線路は水生生物に影響を及ぼす稼働をしない。また、供用後の保安伐採を行わない計画としているため、選定しない。

環境影響評価項目		影響要因	選定 状況	環境影響評価項目として選定 もしくは除外した理由
生態系	生態系の要素及び機能	工事による影響	○	樹木の伐採、土地の改変、建設機械の稼働及び工事用車両の走行により、生態系へ影響を与えるおそれがあるため、選定する。
		存在・供用による影響	－	送電線路は生態系に影響を及ぼす稼働をしない。また、供用後の保安伐採を行わない計画としているため、選定しない。
景観・風景		工事による影響	△	樹木の伐採、土地の改変により、景観・風景が変化するため選定するが、各鉄塔の改変規模が小さいことから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	○	送電線路の存在により、景観・風景が変化することから、選定する。
人と自然との触れ合いの活動の場		工事による影響	△	工事車両の走行により、人と自然との触れ合いの活動の場の利用者に影響を与えるおそれがあるため選定するが、車両台数が少なく、短期間であることから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴う人と自然との触れ合いの活動の場への影響はないため、選定しない。
廃棄物・発生土		工事による影響	△	工事の施工に伴う廃棄物は発生量がごく少量であるため、選定しない。 発生土については基礎の掘削に伴い残土が発生するため選定するが、発生量が少量であることから影響は軽微である。そのため調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い廃棄物・発生土は発生しないため、選定しない。
大気汚染物質・水質汚濁物質		工事による影響	－	工事の施工に伴い大気汚染物質・水質汚濁物質は発生しないため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い大気汚染物質・水質汚濁物質は発生しないため、選定しない。
温室効果ガス等		工事による影響	△	建設機械の稼働及び工事車両の走行により、温室効果ガスが発生するため選定するが、稼働台数が少なく、短期間であることから影響は軽微である。そのため、調査・予測・評価は実施せず、一般的な環境保全対策で対応する。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い温室効果ガス等は発生しないため、選定しない。
放射線の量		工事による影響	－	工事の施工に伴い放射線は発生しないため、選定しない。
		存在・供用による影響	－	送電線路の稼働に伴い放射線は発生しないため、選定しない。

【選定状況の凡例】

○：環境影響評価を標準的に行う項目，△：一般的な環境保全対策で対応する項目，－：除外した項目